

季刊  
1月・2月・3月



# 博物館だより

FUKUSHIMA  
PREFECTURAL  
MUSEUM QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

# 123

福島県立博物館

## 特集展

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展  
アートで伝える考える 福島の今、未来  
at Fukushima Museum

第1会場 2月 4日(土)～4月11日(火)

第2会場 2月11日(土・祝)～4月11日(火)



## 特集展

ふくしま震災遺産保全プロジェクト  
震災遺産を考える ～6本の年輪～

2月11日(土・祝)～4月11日(火)





特集展

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展

## アートで伝える考える 福島の今、未来

at Fukushima Museum

会期：第1会場／平成29年2月4日(土)～4月11日(火)

第2会場／平成29年2月11日(土・祝)～4月11日(火)

※休館日：3/20以外の毎週月曜日と3/21(火)

会場：第1会場(部門展示室「歴史・美術」、第2会場(企画展示室)

観覧料：無料

主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは、平成24年(2012年)から福島県立博物館が福島県内の文化施設、大学、NPO等との協働により行っているアートプロジェクトです。

福島県の文化や自然の豊かさの再発見と、平成23年(2011年)以降に福島が置かれた状況の文化的アプローチによる共有と発信を目的としています。

これまでの活動を通して生まれた作品は、過去・現在・未来の福島を伝え、私たちに多くのことを問いかける得難い存在となりつつあります。

本展では、これまでの5年間の活動からその成果の一部をご紹介します。東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故から6年目。変わりつつある福島であらためてこの6年間を振り返り、福島の現状を共有し、これからの福島をみなさんと考える場としたいと思います。

### 【館長講座】

2月23日(木) 13時30分～

「アートでつなぐはま・なか・あいづ 震災とアート、そして対話」

### 【ギャラリートーク】

2月26日(日) 13時30分～14時30分

3月26日(日) 13時30分～14時30分

平成28年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

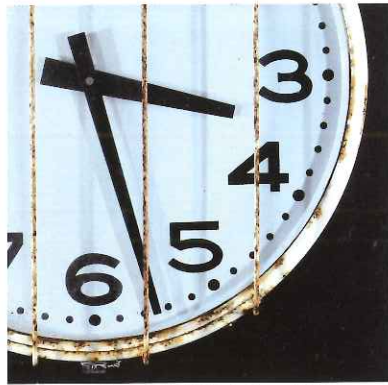






東京電力女子  
サッカー部  
マリーゼの  
マスコット  
「マリちゃん」

旧相馬女子高校避難所で  
書いた「みんなの夢」



いわき市豊間中学校体育館の時計



飯館村綿津見神社大杉の切り株

応急仮設住宅団地  
城北小学校北 →  
入居市町村  
大熊町

会津若松市内の  
仮設住宅案内板

特集展 ふくしま震災遺産保全プロジェクト  
「震災遺産を考える〜6本の年輪〜」

会期：平成29年2月11日(土・祝)〜4月11日(火)

※休館日：3/20以外の毎週月曜日と3/21(火)

会場：企画展示室

観覧料：無料

主催：ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会

ふくしま震災遺産保全プロジェクトでは、東日本大震災を「歴史」としてとらえ、震災によって生じたことを未来に伝えていく活動をしています。そのため、震災に関連する資料(モノ)を収集し、展示を行って県民のみなさんが改めて震災を考える機会としています。

地震、津波、原発事故を直接伝える資料や、これらのダメージによって引き起こされた、救助、避難、支援、除染、復興などのさまざまな局面に関する資料もふくしまの震災を語る上で大切なものです。

さらに、震災前にあつた失われた日常すらも、今となつては遺産としてとらえるべきものなのかもしれません。

展示する資料は震災の断片でしかありません。しかし、それらをつなぎ合わせ、今も生きるふくしまの樹木に刻まれた6本の年輪をしっかりと記録していくことが大切なのだと考えます。

【トークセッション】 (館長講座)

●『会津から見た被災地』 1月19日(木) 13時30分〜 会津高校生ほか

●『県外避難者のいま』 3月23日(木) 13時30分〜 館長赤坂憲雄ほか

# 特別展 「新たな国民のたから——文化庁購入文化財展」 レポート

会期 平成28年9月3日(土)～10月2日(日)

「繊細な日本の技術が素晴らしい。」「普段見ることのできない文化財を見られて良かった。」「など、多くの声が寄せられた本展も10月2日をもって26日間の会期を閉じました。

東北地方で6年ぶりの開催となった本展ですが、今回は九州・京都・東京の各国立博物館保管の国有文化財43件が一堂に会しました。国宝・重要文化財は26件あり、展示品の半分以上が指定品となるのは開館以来初めてのことです。仏像の造形や表情・一面に並んだ刀剣の静かな美・曾我蕭白「群仙図屏風」の色彩や構図等々、長い間受け継がれてきた多様な文化のカタチに触れようと開幕初日から多くの観覧者があり、来場者は1万人を超えました。

開幕日には米沢市上杉博物館学芸員の角屋由美子さんに「上杉景勝御手撰三十五腰とは何か?」と題し、上杉家の刀剣をテーマにした興味深い講演をいただきました。



ギャラリートーク 平成28年9月3日



記念講演会 平成28年9月3日



# 「収蔵庫からこんにちは 福島県立博物館収蔵名品展」レポート

会期：平成28年10月15日(土)～11月27日(日)

福島県立博物館の開館30周年を記念する特集展「収蔵庫からこんにちは」は、開館記念式典の行われた10月15日を皮切りに開催されました。今回の展示は、全体として収蔵品を中心に学芸員選りすぐりの逸品を紹介すること、そして30年間の博物館のあゆみを皆さんに知っていただくことをコンセプトに構成しました。

なかでも注目が集まったのは、今回が初公開でありまた目玉の展示品でもあった、「四穂田古墳出土短甲」と「伊達政宗書状」です。「短甲」は平成23



展示解説会のようす



朝日稲荷神社の絵馬(須賀川市)

年に中島村で発見され、今年夏に保存処理が終わって初めての公開でした。三角板銀留短甲と呼ばれる古墳時代の甲で、東北地方では最古の、また国内最北の発見例として話題になりました。また「伊達政宗書状」は政宗が22歳の時に書かれた手紙で、現在の郡山市街地で佐竹・蘆名連合軍との合戦中、その和睦の仲介役をお願いするため岩城氏に宛てたものです。若き日の政宗の外交手腕が思い起こされる資料で、解説のパネルと交互に資料を読まれる方々が印象的でした。その他に

も、博物館建設以前に県庁に置かれた「文化施設整備室」時代の調査研究成果である原山一号墳(泉崎村)の出土品やフタバクジラ(双葉町)の化石をはじめ、東日本大

震災後に救出された朝日稲荷神社の絵馬(須賀川市)、県内各地の家で持ち伝えられてきた漆器、震災を歴史として語りつぐための震災遺産など、盛りだくさんの内容でした。最後に、展示解説員の制服を開館から現在まで並べたコーナーでは、30年の時代の移り変わりを少し違った角度から感じてもらえたものと思います。



展示解説員制服コレクション

また展示に関連して、学芸員リレー解説会をはじめそれぞれの展示品を深く掘り下げるイベントを開催しました。原山一号墳の出土品に関連して記念講演会「原山一号墳の発掘調査が、元・当館学芸員で東北学院大学教授の辻秀人さんによって行われました。さらに漆器をめぐっては、フードアーテ

ィストの中山晴奈さんと郷土料理研究家の平出美穂子さんをお招きして食のイベント「祝いの器・寿ぎの食」を開催し、さらに明治大学准教授の鞍田崇さんにはトークイベント「祝いのうつわ・漆の力」で漆や漆器の魅力について語っていただきました。解説会&トークイベント「絵馬からよみとく地域の歴史」では「須賀川知る古会」の方々をお呼びして、文化財レスキューされた絵馬をもとに、地域の歴史を深く掘り下げたお話しをしていただきました。

会期中には新聞各紙やテレビ番組にも取り上げていただき、当館が開館30周年であることを県内外にお知らせする良いきっかけにもなると自負しています。また博物館としても、改めてこの30年の歩みを見つめ直し、次へのステップを考える機会となりました。今回いただいた様々なご意見もきっかけを受け止めながら、また次の10年に向けて歩を進めていきたいと思えます。



イベントレポート

福島県立博物館30周年記念行事

昭和61年10月18日に開館した福島県立博物館の30周年を記念し、10月15・16日の2日間、博物館では多くの行事が行われました。

●10月15日(土)

- ・福島県立博物館開館30周年記念式典
- ・シンボルマークデザイン表彰式
- ・やすみりえさん講演会
- ・東山芸妓さんの公演

10月15日(土)、福島県立博物館開館30周年記念式典が行われました。

当日は島副知事・杉山県議会議長をはじめ多くの来賓の方々をお招きし、博物館の30年の節目を祝いました。



福島県立博物館 シンボルマーク

Fukushima Museum

【デザインについて】  
大賞作品の可愛いフタバズキリュウを原案として、新しいマークは、未来を感じさせる福島の卵を抱えています。今後、当館の広報物など、様々なところに活用していきます。(なお、リデザインにあたっては、福島大学の渡邊晃一先生と学生の皆さんにご協力いただきました。)



シンボルマークデザイン表彰式

また、博物館のシンボルマークデザイン表彰式が行われ、4〜6月にご応募いただいた全1,043点の中から、以下の4名の方々が受賞されました。



奨励賞：古川弥那さん (福島西高)

奨励賞：管野雄介さん (船引南中)

大賞：上平瑠菜さん (奈良県天理市・関西文化芸術学院)

優秀賞：澤口果琳さん (白河二中)

福島県立博物館 シンボルマーク原案 受賞作品

- シンボルマーク原案 選考結果
- 大賞：上平瑠菜さん 奈良県天理市 (関西文化芸術学院)
- 優秀賞：澤口果琳さん 白河二中
- 奨励賞：管野雄介さん 船引南中
- 古川弥那さん 福島西高

また午後には、「東山芸妓さんと祝う けんぱく30年」と題して、平成20年のミュージアムイベント以来8年ぶりに当館で公演が行なわれました。華やかな舞いもさることながら芸妓さん伝統のお座敷芸も披露され、何と赤坂館長も飛び入り参加。お祝いの日にいっそう花を添えました。



やすみりえさんとの対談

表彰式のと、大賞作品をもとにつくられた当館の新しいシンボルマークが発表されました。

式典に引き続き、テレビでもおなじみのやすみりえさん(川柳作家・文化庁文化審議会国語分科会委員)による講演「伝統を現代に生かす！」および館長との対談が行われました。当館で今年度実施している「けんぱく川柳」「震災復興川柳」も題材として、川柳の歴史や日常への取り入れ方など分かりやすくお話しいただきました。





東山芸妓さんと祝うけんぱく30年

● 10月16日 (日)

・博物館でも読み聞かせ  
 ・作って！見て！感じる！ ふくしま  
 技の世界

・会津鶴ヶ城太鼓 若駒会 公演

10月16日(日)、体験学習室では読み聞かせグループ「おはなしのへや」の皆さんと当館の荒木学芸員による「博物館でも読み聞かせ」のイベントが、エントランスホールでは「作って！見て！感じる！ ふくしま技の世界」と題して、県内各団体による伝統の技が披露されました。

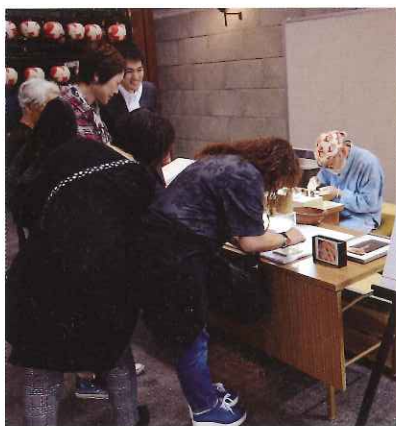
(参加団体)

■唐人凧づくり (講師：磐梯熱海・つくし工房 齋藤誠一さん)

■会津の絵ろうそくづくり (講師：会

津若松・小澤ろうそく店)  
 ■お人形様行事のわら人形作り (西会津・萱本ふるさとおこし実行委員会の皆さん)  
 ■柳津の微細彫刻 (講師：柳津・金坂富山さん)

特に柳津の微細彫刻は、平成23年度の特集展「小さなもの集まれ！」でも展示され、1cmにも満たない小さな仏像を彫刻刀で彫り出す高度な手わざです。虫眼鏡で見ると顔にはちゃんと豊かな表情も刻まれ、来館者のみなさんの目を引きました。



作って見て感じるふくしま技の世界

イベントの合間、お昼には前庭で「会津鶴ヶ城太鼓 若駒会」による和太鼓公演も行われました。お天気にも恵まれ、秋の一日、博物館を素敵に彩っていたきました。ご協力いただいた各団体・協力者の皆様に心よりお礼申し上げます。

春の企画展

寄贈記念 自然をうつす ～漆芸家・関谷浩二が挑んだ漆表現の可能性～

会期：平成29年4月29日(土・祝)～6月4日(日)

会場：福島県立博物館企画展示室

福島県川俣町出身で、会津若松市の蒔絵師・関谷彦蔵に学び、後にその養子となった関谷浩二は、丁寧に誠実な関谷彦蔵の蒔絵を受け継ぎました。やがて養父の没後、日本を代表する漆芸家・六角大塚、田口善国の門下となり技術を磨きます。

技だけではなく精神性まで教えられたという優れた師たちとの出会いの中で身についた精緻な技も、技だけでは成り立ちません。関谷浩二は、日々、自然に向き合い、その姿を写し取るべくスケッチを重ねました。対象の質感、気配まで写し取ろうとするかのように丹念に行われたスケッチが、秀逸な技と融合した時、漆の新たな表現を生み出しました。それらは、関谷浩二の漆表現への挑戦の軌跡でもあります。

本展は、近年、本人より寄贈を受けた作品の当館での初公開であり、関谷浩二の漆表現の探求の旅をたどるものでもあります。会津伝統の漆の技、日本を代表する技術、それらを基盤とした漆表現の数々から、改めて漆表現の可能性を考えます。



関谷浩二作 尾瀬の花蒔絵箱 (福島県立博物館蔵)



関谷浩二作 霧氷蒔絵箱 (福島県立博物館蔵)



特集展

無料

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展  
アートで伝える考える福島は今、未来

at Fukushima Museum

第一会場(部門展示室「歴史・美術」)

2月4日(土)～4月11日(火)

第二会場(企画展示室)

2月11日(土・祝)～4月11日(火)

ギャラリートーク

2月26日(日) 13時30分～14時30分  
3月26日(日) 13時30分～14時30分

ふくしま震災遺産保全プロジェクト

震災遺産を考える6本の年輪

企画展示室 2月11日(土・祝)～4月11日(火)

関連講座 東日本大震災を考えるトークセッション(館長講座)

(申込不要、無料、講堂) 館長 赤坂憲雄他

1月19日(木) 「会津から見た被災地」

2月23日(木) 「アートでつなぐはま・なか・あいづ  
震災とアート、そして対話」

3月23日(木) 「県外避難者のいま」

テーマ展

部門展示室  
常設展示料金

けんぱくの宝2

平成28年11月22日(火)～1月22日(日)

ポイント展

総合・部門展示室  
常設展示料金

むかしの道具

ご飯をつくる・おいしくたもつ

平成28年12月2日(金)～3月1日(水)

流す雛人形・飾る雛人形

3月3日(金)～3月30日(木)

猪苗代湖の水利用

3月3日(金)～3月31日(金)

開館30周年記念イベント

★は要申込

「けんぱく感謝祭2」

博物館の新たな門出を

獅子ステップで祝おう(会津彼岸獅子)

3月12日(日) 13時30分～14時30分

★ワークショップ(要申込、定員20名)

場所 正面玄関前広場

講座・実演

★は要申込

【実技講座】(要申込、無料、定員15名、実習室)

★「縄文時代の編み物を再現しよう！」

1月15日(日) 10時～15時

講師 バスケタリー作家 本間一恵氏

【民俗講座】(申込不要、無料、講堂)

おもしろ民俗学ゼミナール③

「雛人形を早く片づけないと婚期が遅れるの?」

「節句の民俗入門」

1月21日(土) 13時30分～14時30分

講師 学芸員 内山大介

【歴史講座】(申込不要、無料、講堂)

「幕末維新期のふくしまゆかりの人物」

第1回「石」を愛した会津藩士・田村三省一

2月4日(土) 講師 学芸員 高橋 充

第2回「知られざる斗南藩権大参事・原田五郎右衛門」

2月18日(土) 講師 学芸員 阿部綾子

第3回「幕府の儒者とその弟子の活躍・安積良斎と中村正直」

2月25日(土) 講師 学芸員 佐藤洋一

第4回「三春藩出身の自由民権家・河野広中」

3月4日(土) 講師 学芸員 栗原祐斗

第5回「ふくしまの医療人・近代医学の発展に貢献した人々」

3月18日(土) 講師 学芸員 田中伸一

★【考古学講座】(要申込、定員20名、300円、実習室)

「勾玉・ガラス玉を作ろう」

3月25日(土) 10時～15時

講師 学芸員 高橋 満

【はにわ大王が案内するギャラリートーク】

(申込不要、要常設展示料金、総合展示室)

親子で楽しむふくしまの歴史⑥

「江戸時代のふくしま」

2月11日(土・祝) 14時～15時

講師 学芸員 荒木 隆

【交流会】(申込不要、注文メニュー各自負担、レストラン)

「サロンド考古学⑤⑥」

⑤ 1月14日(土) 14時～15時

⑥ 3月5日(日) 14時～15時

講師 学芸員 荒木 隆

\*要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始します(異なる場合もありますのでご確認ください)。電話もしくは受付カウンターでお申込みください。

\*その他、行事等の詳細につきましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

年末年始の休館日

12月28日(水)～1月4日(水)

1月～3月の休館日

1月10日(火)・16日(月)・23日(月)・30日(月)  
2月6日(月)・13日(月)・20日(月)・27日(月)  
3月6日(月)・13日(月)・21日(火)・27日(月)

【お問い合わせ先】  
福島県立博物館  
〒965-0807 会津若松市城東町1-25  
Tel 0242-28-6000 Fax 0242-28-5986  
HP <http://www.general-museum.fks.ed.jp/>  
Mail [netmaster@general-museum.fks.ed.jp](mailto:netmaster@general-museum.fks.ed.jp)

